授業ガイド

SYLLABUS

高崎健康福祉大学大学院　健康福祉学研究科

講義概要

修士課程
博士前期課程

医療福祉情報学専攻　修士課程

科目名	基礎医学特論
英文名	Basic Medicine
担当者	小澤　瀞司
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　必修　2単位
当該科目の目的	人体は、分子→細胞→組織→器官→器官系→個体という階層性をもつ。本科目の目的は、これらの各階層の構造と機能に関する知識を深め、それらの異常がどのようなメカニズムにより、病気を引き起こすかを論理的に説明できる能力を養うことである。受講者が関心を持つ代表的な疾患をいくつか選び、それらを対象に授業を進める。
当該科目の内容・計画	第1回　イントロダクション―授業の進め方、到達目標、評価方法の確認―　各受講者が重点的に取り組む疾患を決める。 第2回～第3回　医学情報データベースの活用法 第4回～第11回　疾患に関連する器官系の病態生理学各論 第12回～第14回　各受講者が重点的に取り組んだ課題に関する成果発表 第15回　まとめ
評価方法	成績は、最終成果発表におけるプレゼンテーションの完成度（内容の質、形式、態度）によって評価する。
参考書・テキスト等	参考書、文献等はその都度提示する。 参考資料：　http://www.nlm.nih.gov/medlineplus/

科目名	臨床医学特論
英文名	Fundamental Clinical Medicine
担当者	伊関　洋
時期・単位	医療福祉情報学専攻　2年前期　必修　2単位
当該科目の目的	医療関連の必修専門科目として修士課程1年次には基礎医学を学んだが、2年次には臨床医学とは何かを学ぶ。具体的に臨床現場での事例を挙げながら、患者さんとのインターフェースに視点を置いて臨床医学のあるべき姿について討議する。また、この分野における情報ツールの活用方法についても理解を深め、医療情報の専門家としてのスキルアップを図る。
当該科目の内容・計画	基本的に集中講義および討議の形式で授業を行う。 第1回～第4回　講師の臨床経験に基づき臨床医学とは何かにつき講義と討論を行う。 第5回～第8回　脳外科領域に情報システムを導入した経験から臨床医学と情報学の融合の意義について討議する。 第9回～第11回　講師の所属する東京女子医科大学において、インテリジェント手術室の見学を含め、医療現場で臨床医学の理解を深める。 第12回～第15回　総合討議とレポート課題の提示。 以上が基本的な内容であるが、学生の人数および関心の領域に応じてフレキシブルに内容を変更する。
評価方法	レポートを課し、その内容を評価し成績をつける。
参考書・テキスト等	講師作成のpptファイルおよびプリントが中心となる。

科目名	医療情報学特論
英文名	Medical Informatics
担当者	長澤　亨
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　必修　2単位
当該科目の目的	現在、電子カルテの導入、遠隔医療など医療環境は大きく変化している。さまざまな検査技術を習得することも大切であるが、それらの技術から提供される医療情報の活用や管理がより一層重要になってきている。そのため、医療の特質をふまえて、最適な情報処理技術にもとづき、医療情報を安全かつ有効に活用、提供することができる知識、技術および資質を有する医療関係者の育成が急務となっている。特論では、医療情報学において対象とする医療情報を定量的に解析する際に必要となる多変量解析を講義から理論を理解し、医療情報活用の基礎学力を養成することを目的とする。
当該科目の内容・計画	講義は後期の演習に繋ぐことを念頭に進める予定である。 第1回　前期講義計画と多変量解析の準備、説明に利用する数学（偏微分、ラグランジュ未定乗数法、行列、固有値など） 第2回　多変量解析とは、資料の前処理、データの標準化、2変量の関係 第3回　正規性と平均値に関する推測、実験計画法、多重比較 第4回　薬効検定、分割表分析、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 第5回　重回帰分析、回帰方程式でデータを予測 第6回　主成分分析、データの見晴らしを良くする 第7回　クラスター分析、類似性を定量的・視覚的に把握する 第8回　因子分析、単純な因子で複雑な資料を掴む 第9回　正準判別分析、変量群の関係を探る 第10回　判別分析、データをグループ分けする 第11回　時系列解析 第12回～第14回　数量化分析Ⅰ～Ⅳ類 第15回　まとめ
評価方法	講義は理論的な解説と対話、発表形式となるため、対話や発表内容を重視する（50%）、学期末に課するレポート（50%）で評価する。
参考書・テキスト等	参考図書は紹介する。レクチャーに使用する資料は随時配布する。

科目名	医療情報学特論演習
英文名	Medical Informatics Practice
担当者	長澤　亨
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　必修　2単位
当該科目の目的	本特論演習では、前期の特論の学習内容を定着するために、医療情報の多変量解析を実際のデータを使った演習を行い、医療情報活用の基礎力を養成することを目的とする。
当該科目の内容・計画	実際のデータを使って演習を進め、必要であれば理論的な説明を加える。 第1回　後期講義計画と多変量解析の演習を行うためのツール、SPSSとRに関する準備、説明を行う。 第2回　資料の前処理、データの標準化、2変量の関係 第3回　平均値に関する推測と実験計画法、多重比較 第4回　分割表分析、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 第5回～第10回　多変量解析、重回帰分析、主成分分析、クラスター分析、因子分析、　正準判別分析、判別分析など 第11回　時系列解析 第12回～第14回　数量化分析Ⅰ～Ⅳ類 第15回　まとめ
評価方法	本演習は実データの処理とその解釈など対話、発表形式で行うため、対話や発表内容を重視する（50%）、学期末に課するレポート（50%）で評価する。
参考書・テキスト等	参考図書は紹介する。レクチャーに使用する資料は随時配布する。

科目名	質的/量的研究特論
英文名	Qualitative research and Quantitative research
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	保健福祉学における調査研究の主たる二つの方法である。質的研究と量的研究について講義を行う。質的研究は、比較的に数の少ないデータについて「何故、どうして」という意味内容を把握するために行われる。内容分析、グラウンデッドセオリー、エスのグラフィーなどの方法で記述データを扱うことが多い。量的研究は、数の多いデータを標準化された尺度で数量化し平均値比較や相関を探索する研究である。研究の基礎になる二つの方法論について講義する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　調査研究の基礎 第4回～第6回　仮説と実証 第7回～第9回　量的研究概説 第10回～第12回　量的研究例と方法論 第13回～第15回　質的研究概説
評価方法	授業態度や面接内容
参考書・テキスト等	第1回の時に学生レベルに応じて決める

科目名	社会福祉研究方法論
英文名	Research Methods of Social Welfare
担当者	安達　正嗣
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	福祉およびその関連領域における研究法について、教科書および既存論文・報告書などを通して幅広く学び、論文作成に役立てる。
当該科目の内容・計画	第1回　はじめに 第2回～第6回　社会福祉研究とは何か 第7回～第8回　研究の設計と手順 第9回～第14回　研究事例に学ぶ 第15回　まとめ
評価方法	毎回、教科書を持参して、予習復習をすること。 なるべく学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業への関与の度合いを重視する(50%)。また、学期末にはレポート課す(50%)。
参考書・テキスト等	教科書:岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2,310円。 講義に使用する資料は適宜配布する

科目名	国際保健学特論
英文名	
担当者	
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	今日なお、世界の過半数の人類は貧困問題、食糧問題、環境問題、教育問題など人々の生存に必要な基本的な分野で多くの課題を抱えている。講義では世界の保健医療の現状、国際保健医療協力の理念、国際保健医療協力の体制および方法論等につき概観した後、事例を通じて学ぶ。
当該科目の内容・計画	第1回　国際保健医療協力とは 第2回　日本の国際保健医療活動の概要 第3回　アジアにおける国際保健医療活動の現状と課題(1) 第4回　アジアにおける国際保健医療活動の現状と課題(2) 第5回　保健医療関連の国際機関の状況 第6回　途上国における環境と生活:インドネシアの場合(1) 第7回　途上国における環境と生活:インドネシアの場合(2) 第8回　途上国における保健医療の実態:インドネシアの場合(1) 第9回　途上国における保健医療の実態:インドネシアの場合(2) 第10回　途上国における保健医療の実態:インドネシアの場合(3) 第11回　途上国における保健医療の実態:中国の場合(1) 第12回　途上国における保健医療の実態:中国の場合(2) 第13回　諸外国における保健医療制度(1) 第14回　諸外国における保健医療制度(2) 第15回　国際保健医療論のまとめ
評価方法	中間の何回かの筆記試験およびレポート提出で総合評価するが、出席状況、学習態度も考慮する。
参考書・テキスト等	

科目名	医療倫理特論
英文名	Medical Ethics
担当者	大石　桂子
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	近年では先端医療技術の飛躍的な発展によって、人間が生まれる、生きる、死を迎えるという各段階それぞれに、新たな倫理的課題が生じている。 本講義では倫理学の基礎理論を踏まえつつ、「移植医療」、「遺伝子診断」、「エンハンスメント」などのテーマを取り上げる。資料の講読、事例研究、ディスカッションを通して、生命を取り巻く現代の状況、生命の尊重、病気や障害をどのように受けとめるかについて自ら考察することを目的とする。
当該科目の内容・計画	第1回　イントロダクション 第2回～第3回:　目的論と義務論 第4回～第6回　エンハンスメント:　脳と精神への薬理学的介入、身体能力の増強、弱さの価値 第7回～第9回　遺伝子診断:　遺伝子による就労差別、プライバシー権、出生前診断 第10回～第12回　移植医療:　脳死移植・生体移植と自己決定、死の定義と献体の文化的背景 第13回～第14回　技術と社会:　生命の尊重と病気の受けとめ、「生きがい」 第15回　まとめ
評価方法	課題(60%)および講義中の発言、ディスカッション内容など(40%)で評価する。
参考書・テキスト等	講義中に適宜指示する。

科目名	健康科学特論
英文名	
担当者	
時期・単位	(平成26年度は休講)
当該科目の目的	
当該科目の内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	病院経営特論
英文名	Theory of Hospital Management
担当者	木村　憲洋
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	病院経営は、医療政策や地域の医療ニーズ、医療従事者の動向に左右される。医療政策は、国民医療費の増大に対応するため効率的な医療費の配分の方向へと向かっている。地域の医療ニーズは、公衆衛生データや公開されたDPCのデータから予測され、自院のポジションを知ることから病院経営へ生かすことができる。また、医療従事者の地域における需給状況は経営にとって大きな影響を与えることとなる。 本講座では、診療情報管理の重要性に基づき、地域の医療ニーズと自院の地域における医療提供体制を理解し、先進的な病院経営戦略を構築するための方策を検討する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　病院経営の目的:①病院経営、②医療の質、③経営基盤 第4回～第6回　病院経営戦略:①選択と集中、②機能分化と連携、③医療とマーケティング 第7回～第10回　病院経営と組織、人材育成:①チーム医療、②組織変革、③人材活用、④教育研修 第11回～第13回　病院経営と手法:①診断群分類と分析、②BSC、③TQM/TPS 第14回～第15回　病院経営のイノベーション:①イノベーション、②介護サービス
評価方法	ケーススタディーによる全体討論とレポート
参考書・テキスト等	1からの病院経営、碩学社 病院経営のしくみ、日本医療企画 病院経営のしくみ2、日本医療企画

科目名	医療経済学特論
英文名	Health Economics
担当者	町田　修三
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	将来医療関連の仕事や研究に従事する学生にとって必要な、医療経済に関する諸問題を学習する講座である。本講義では、下に示すような内容について充分に理解し、それらを論文のなかで自由に展開できたり、あるいは学部生に指導ができるといったレベルに到達することを目標とする。
当該科目の内容・計画	第1回　イントロダクション－授業の進め方、到達目標、評価方法の確認 第2回～第4回　医療の経済分析－医療需要と国民医療費の計量分析、病院行動と病院間競争 第5回～第7回　医療マネジメント－医療マーケティング、地域医療政策 第8回～第10回　医療改革と医療制度改革－日本と世界の比較分析 第11回～第12回　経済開発と医療－発展途上国、新興国の医療 第13回～第15回　医薬品産業の経済分析－製薬会社と医薬品卸会社の行動と産業構造
評価方法	講義は対話形式やリサーチ内容の発表形式が中心となる。よって講義内でのレスポンスや発言、また発表内容といった通常授業中でのパフォーマンスを重視する（評価の50%）。学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解して分析が行われているかを重視する）による評価50%。
参考書・テキスト等	特に指定はしないが、推薦図書を何冊か紹介する。講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	生体画像情報学特論
英文名	
担当者	児玉　直樹
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	近年、医用画像診断機器は高度化し、生体画像のディジタル化が急速に普及している。それに伴い、CTやMRIなどから得られた三次元画像の臨床応用も進んでおり、生体画像情報学の重要性は益々高くなっている。本科目では、医用画像診断機器から得られる生体画像の特徴、生体画像の解析と認識、画像情報の管理、およびそれらを基盤にしたコンピュータ支援診断技術とその評価方法について研究する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　医用画像診断機器から得られる生体画像の特徴 第4回～第6回　生体画像の解析 第7回～第9回　生体画像の認識 第10回～第11回　画像情報の管理 第12回～第13回　コンピュータ支援診断技術 第14回　コンピュータ支援診断技術の評価方法 第15回　まとめ
評価方法	提出された課題（100%）により評価する。
参考書・テキスト等	講義に必要な資料等は適時配布する。

科目名	健康情報学特論演習
英文名	Health Informatics
担当者	竹内　裕之
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	【講義目的】病気の早期発見を目的として定期的な健康診断が実施されているが、より積極的に健康管理をするためには日常の生活環境で発生している個人の健康情報や生活習慣情報を対象とし、そこから健康維持・増進に有用な知識を獲得することの重要性が指摘されている。本講義では、このような技術を「健康データマイニング」と名づけその手法について実践的に学ぶ。 【到達目標】健康データマイニングの意義、手法について理解し、実践できる。
当該科目の内容・計画	第1回　導入・健康情報学とは 第2回　治療1－低侵襲手術ー 第3回　治療2－粒子線治療ー 第4回　治療3－再生医療ー 第5回　検診1－遺伝子検診ー 第6回　検診2－分子イメージングー 第7回　予防1ー個人健康管理ー 第8回　データベースの構築演習（Ⅰ） 第9回　データベースの構築演習（Ⅱ） 第10回　データマイニング技術（Ⅰ） 第11回　データマイニング技術（Ⅱ） 第12回～15回　健康データマイニング演習
評価方法	健康データマイニング演習のレポートにて評価する。
参考書・テキスト等	(1)自作pptファイルのプリント

科目名	画像処理特論演習
英文名	Image Processing & Pattern Recognition
担当者	
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	画像処理においては、目標候補を自動抽出し、それらに対し信頼性の高いパターン識別を実現することが肝要である。そのためには、目標が持つ計算可能な特徴量を見出す信号処理技術と、目標候補群より真の目標と偽の目標とを区別するパターン識別技術を学ぶ必要がある。本演習で、まず例題を解説し、演習課題は受講生が研究対象とする画像における目標抽出方法の開発とする。
当該科目の内容・計画	第1回　イントロダクションー授業の進め方、到達目標、評価方法の確認 第2回～第4回　信号処理レベルでの目標抽出の方法 第5回～第7回　統計的手法によるパターン識別レベルでの目標抽出の方法 第8回～第10回　演習課題の取り組み方針（ディスカッション） 第11回～第13回　コンピュータプログラミングとその結果の評価 第14回～第15回　改善、今後の推進方法に関する議論
評価方法	演習課題に関するレポートによる評価（60%）と、講義中に適宜質問し内容を充分に理解しているかによる評価（40%）による。
参考書・テキスト等	講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	医用工学特論
英文名	Biomedical Engineering
担当者	宮川　道夫
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	科学技術のめざましい進歩に支えられた現代医学は、客観性・定量性に富んだ生体情報の獲得と治癒確率の高い治療を実現する医療福祉機器やサービスによって実現されている。医療福祉の実践を技術面から支える人材育成のため、本講義では生体の働きを反映した物理・化学信号を捉えて診断情報を提供、或いは治療するシステムの原理や特徴について学び、臨床実務遂行に役立つ知識を習得する。
当該科目の内容・計画	第1回・・・イントロダクション 第2回・・・医療福祉のための物理学1 第3回・・・医療福祉のための物理学2 第4回・・・医療福祉のための化学1 第5回・・・医療福祉のための化学2 第6回・・・生体物性1 第7回・・・生体物性2 第8回・・・生体信号と処理 第9回・・・診断に関わる医療福祉機器・システム1 第10回・・ 診断に関わる医療福祉機器・システム2 第11回・・ 治療に関わる医療福祉機器・システム1 第12回・・ 治療に関わる医療福祉機器・システム2 第13回・・ 医療福祉機器と安全性の確保 第14回・・ 医療情報システム 第15回・・ まとめ
評価方法	出席と、2回のレポート内容評価により成績評価を行う。
参考書・テキスト等	講義は独自のpptファイル提示により行うが、参考書は以下の2点である。 [1] 軽部征夫：医療従事者のための医用工学概論、オーム社、2009年 [2] 嶋津秀昭：医用工学概論、コロナ社、2007

科目名	情報システム構築特論演習
英文名	Information System Construction Methodology
担当者	東福寺　幾夫
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	医療において、病気を診断し、治療方針を選択し、治療効果の評価をしていくうえで、情報こそがそのキーであり、現代の医療は情報システムの支援なくして、成り立ち得ないのである。医療情報システムは、こうした現代医療を支える重要なツールである。 医療情報システムの構築を担当するシステムエンジニア(SE)は医療・医学の知識とプログラミングなどITスキルが必要とされる。さらに多機能化・複雑化する医療情報システムを構築するには、最新のツールを使いこなすことが求められる。 そこで、本演習では、有力なシステム構築ツールであるULM(Unified Modeling Language)について研究し、理解を深める。
当該科目の内容・計画	第1回　Introduction、本演習の進め方 第2回　UMLの概要 第3回　開発プロセス 第4回　クラス図 第5回　シーケンス図 第6回　クラス図：上位概念 第7回　オブジェクト図 第8回　パッケージ図 第9回　配置図 第10回　ユースケース 第11回　状態マシン図 第12回　アクティビティ図 第13回　コミュニケーション図、コンポジット図、コンポーネント図 第14回　コラボレーション、相互作用概念図、タイミング図 第15回　まとめ
評価方法	毎回提出するレジュメ、討議内容およびレポートを総合的に評価する。
参考書・テキスト等	UMLモデリングのエッセンス第3版　マーチン・ファウラー著　羽生田栄一監訳　翔泳社

科目名	医療福祉情報学特別研究
英文名	Healthcare Informatics Research
担当者	竹内裕之、小澤瀞司、東福寺幾夫、児玉直樹、木村憲洋
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1・2年　通年　選択　8単位
当該科目の目的	情報技術の実社会への適用という観点から医療福祉情報学に関する研究テーマを選定し、研究計画の策定、実施、修士論文作成のすべての過程において、指導教員が助言・指導を行う。特にこの分野は工学(情報)と保健衛生学との学際領域であることから、幅広い視野に立った研究指導を行う。
当該科目の内容・計画	研究計画の策定、実施、修士論文作成のそれぞれの過程において、適宜ゼミ形式の授業を行い、討論を通して研究の方向性、方法論を指導する。
評価方法	修士論文の審査結果にて評価に代える。
参考書・テキスト等	

保健福祉学専攻　博士前期課程

科目名	質的/量的研究総論
英文名	Qualitative research and Quantitative research
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の目的	保健福祉学における調査研究の主たる二つの方法である。質的研究と量的研究について講義を行う。質的研究は、比較的に数の少ないデータについて「何故、どうして」という意味内容を把握するために行われる。内容分析、グラウンデッドセオリー、エスのグラフィーなどの方法で記述データを扱うことが多い。量的研究は、数の多いデータを標準化された尺度で数量化し平均値比較や相関を探索する研究である。研究の基礎になる二つの方法論について講義する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　調査研究の基礎 第4回～第6回　仮説と実証 第7回～第9回　量的研究概説 第10回～第12回　量的研究例と方法論 第13回～第15回　質的研究概説 第16回～第18回　質的研究と方法論 第19回～第21回　研究デザインの基礎 第22回～第24回　研究方法の吟味 第25回～第27回　疫学研究倫理審査について 第28回～第30回　研究論文のまとめ方
評価方法	授業態度や面接内容
参考書・テキスト等	第1回の時に学生レベルに応じて決める

科目名	社会福祉研究方法論
英文名	Research Methods of Social Welfare
担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	福祉およびその関連領域における研究法について、教科書および既存論文・報告書などを通して幅広く学び、論文作成に役立てる。
当該科目の内容・計画	第1回　はじめに 第2回～第6回　社会福祉研究とは何か 第7回～第8回　研究の設計と手順 第9回～第14回　研究事例に学ぶ 第15回　まとめ
評価方法	毎回、教科書を持参して、予習復習をすること。 なるべく学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業への関与の度合いを重視する(50%)。また、学期末にはレポート課す(50%)
参考書・テキスト等	教科書:岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2,310円。 講義に使用する資料は適宜配布する

科目名	保健福祉調査特論
英文名	Basic Research Methods in Health and Welfare Sciences
担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	本講義では、保健福祉分野における実証研究に対応するための社会調査の基礎について解説し、受講生に作業をしてもらいながらすすめていく。単に調査に関する研究技法を身につけるだけでなく、論理的な思考力を養ってもらいたい。
当該科目の内容・計画	第1回　はじめに 第2回～第4回　社会調査の論理 第5回～第8回　調査票調査の方法 第9回～第10回　調査票の作成 第11回～第12回　実査・調査データの入力・データクリーニング 第13回～第14回　調査結果の分析 第15回　報告書・研究論文としてのまとめ
評価方法	毎回、教科書を持参して、予習復習をすること。 なるべく学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業ならびに作業への関与の度合いを重視する(50%)。また、学期末にはレポート課す(50%)
参考書・テキスト等	教科書:大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房、2,625円。 講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	保健福祉と精神分析特論
英文名	Health welfare and Psychoanalysis
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	保健と福祉の実践に役立つ精神分析的な基礎理論を提供することが目的である。精神分析に 第点　度　は　に　だ

科目名	家族研究・家族療法特論
英文名	
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	【講義目的】現代社会は、虐待、ひきこもりなどの児童・生徒の問題、中高年の自殺、介護をめぐる心理的問題など、ライフサイクルの途上で、さまざまな問題に直面している。カウンセリングと家族療法の理論と技法を学び、修士学生の研究や、将来の実践につなげることが目的である。 【到達目標】カウンセリングスキルの習得と家族療法スキルの習得
当該科目の内容・計画	第 1回　精神療法と家族療法 第 2回　クライエントの理解 第 3回　力精神医学的なクライエント理解1 第 4回　力精神医学的なクライエント理解2 第 5回　転移と逆転移 第 6回　介入技法 第 7回　家族とは 第 8回　家族療法のフィールド 第 9回　ジェノグラムについて 第10回　ジェノグラムワーク1 第11回　ジェノグラムワーク2 第12回　家族療法の技法 第13回　家族療法の技法 第14回　家族療法の実際 第15回　家族療法の実際
評価方法	講義における積極性などで判断する
参考書・テキスト等	授業内で提示する

科目名	子育て支援特論Ⅰ
英文名	Child Care Support (Mastered) Ⅰ
担当者	千葉　千恵美
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	子育て支援や家族支援を学ぶ学生のために開講する。今日の社会状況の中で子育ての困難さ、親子関係の変化などを学習する。講義、事例検討、実習（子ども・家族支援センター）を通して、子育て支援に必要な基本的な理論や技法を学習することが目的である。
当該科目の内容・計画	第1回　オリエンテーション 第2回～第5回　子育て支援が必要になった社会的背景と現状 第6回～第9回　心身の発達、親子関係の発達、家族関係の発達 第10回～第12回　親カウンセリング、家族ソーシャルワーク 第13回～第14回　ロールプレイなどを通じて体験的に学ぶ 第15回　まとめ　（ディスカッション）
評価方法	学生の積極性や質疑応答などを総合的に判断する（レポート提出）
参考書・テキスト等	平山宗宏(編)「子どもの保健と支援」日本小児医事出版社2011 千葉千恵美著「保育ソーシャルワークと子育て支援」久美株式会社　2011 千葉千恵美著「乳幼児のための保育と親への支援」久美株式会社　2006

科目名	子育て支援特論Ⅱ
英文名	Child Care Support (Mastered)Ⅱ
担当者	千葉　千恵美
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	子ども・家族支援センターの活動への参加を中心に、子育て支援について体験的に学び、現場で活用するための面接技術、親子あそび、連携についての具体的な計画と実践が行えるようになることが目的である。また、相談機関等施設訪問を計画し支援等を考えていく。
当該科目の内容・計画	第1回　オリエンテーション 第2回～第5回　親子ふれあい教室についての講義と実習 第6回～第9回　国際結婚時の支援について講義と実習 第10回～第12回　学生からのニーズに対応した学習（事例検討1） 第13回～第14回　学生からのニーズに対応した学習（事例検討2） 第15回　まとめ　（ディスカッションを行う）
評価方法	学生の積極性や質疑応答などを総合的に判断する。（レポート提出）
参考書・テキスト等	子育て支援特論Ⅰで使用するテキストと同様

科目名	精神保健特論
英文名	
担当者	狩野　正之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	うつ病および自殺対策の話題を中心に精神保健学について理解する。
当該科目の内容・計画	第1回～5回　精神保健学総論 第6回～9回　うつ病 第10回～12回　うつ病以外の精神疾患 第13回～15回　自殺対策 回数にとらわれず、上記の内容を、指導生とともに検討しながら進めてゆく。
評価方法	最終回にレポートを提出し評価(課題は授業中に決める)
参考書・テキスト等	特になし

科目名	トラウマの理解と支援特論
英文名	Traumatic stress
担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	PTSD(posttraumatic stress disorder)は、突然の衝撃的出来事を経験することによって生じる、特徴的な精神疾患である。PTSDの診断のためには災害、戦闘体験、犯罪被害など、強い恐怖感を伴う外的な体験(トラウマ)が、必要条件となる。しかし最近の研究では、「衝撃的出来事の経験＝PTSD発症」という単純な図式ではなく、むしろ出来事に対する直後の「強い恐怖、無力感または戦慄」を重要視している。本講では、昨今の様々な社会的な事件事故災害などの発生に鑑み、トラウマおよびPTSDの理解、支援について学び、社会福祉の現場での課題について考察する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　トラウマティックストレス総論、トラウマ理論の歴史 第4回～第6回　ストレス関連疾患、PTSDの基礎科学 第7回～第9回　PTSDの診断と症状、急性ストレスについて 第10回～第12回　PTSDの支援、PTSDをめぐる様々な問題 第13回～第15回　昨今の社会的問題との関連、社会福祉の現場におけるトラウマ ＊回数や内容はこれにとらわれず、指導生と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。
評価方法	講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。
参考書・テキスト等	適宜参考書を推薦。(例、雑誌「トラウマティック・ストレス」、JSTSS学会誌、じほう株式会社)

科目名	発達障害の脳科学と支援特論
英文名	Neuroscience of developmental disorders towards improvements of their support
担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	発達障害は、社会性やコミュニケーション、想像性、注意機能、衝動制御などに特異的な様態を有する。これらは、生来の脳機能の特性に由来することがおおよそ明らかになってきている。こうした特徴は、場合によっては、平均的な社会状況や対人場面で困難や不自由を生みだす。こうした事態が、養育や修学、就労をめぐって持続すると、心理社会生物要因が複雑に絡み合った2次的な障害を呈する。本講では、発達障害の最新の脳科学的知見を学習し、そこから得られる知見を、いかに社会福祉的な支援に結びつけられるか、考察と討論を行う。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　発達障害の総論、各論 第4回～第5回　自閉スペクトラムの脳科学 第6回～第7回　注意欠陥多動性障害の脳科学 第8回～第9回　その他の発達障害、2次的な問題や障害 第10回～第11回　支援の現状と課題 第12回～第13回　社会福祉施策 第14回～第15回　教育や司法の現場から、総合討論、レポート発表などを予定。 ＊回数や内容はこれにとらわれず、指導生と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。
評価方法	講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。
参考書・テキスト等	適宜参考書を推薦する(佐々木正美、自閉症のすべてがわかる本、講談社など)

科目名	食とメンタルヘルス特論
英文名	Mental health and eating attitudes
担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	2005年に成立した食育基本法では、食は生きるための基本的な行動であり、食に関する知識の教育が、心身の発達に重要であると明確に宣言された（「国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組みにより、健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことを目的としている」）。本講では、特にメンタルヘルスとの関連に焦点を当て、さまざまな精神・心身の問題と「食」との密接な関連について考察する。特に、担当者の専門とする摂食障害などを例にとり、文化や人間関係と食行動との関係、現代社会の抱える食の問題などにも視野を広げていく。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　ヒトや動物の食行動について、食にかかわる健康問題 第4回～第6回　心身医学的・精神医学的な疾患と食行動 第7回～第9回　摂食障害特論 第10回～第12回　子どもの摂食問題、現代社会の抱える食の問題 第13回～第15回　マインドフルな食、まとめ ＊回数や内容はこれにとらわれず、指導生と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。
評価方法	講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。
参考書・テキスト等	適宜参考書を推薦する（食にとらわれたプリンセス―摂食障害をめぐる物語、上原徹、星和書店など）

科目名	地域福祉特論
英文名	Community Care System
担当者	金井　敏
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	2000年の社会福祉法改正や福祉制度・サービスの多元化，日常的に地域で起こっている生活課題など近年クローズアップされている諸問題を地域福祉実践と研究を切り口に学ぶ講座である。以下に示す内容について，文献研究やフィールドワーク研究を通じて，地域福祉に関する学術レベルの議論が展開できる資質を養うことを目的とする。
当該科目の内容・計画	第1回　授業ガイダンス…授業の目的，内容，すすめ方，評価方法の確認 第2回～第4回　社会福祉基礎構造改革と社会福祉法の改称・改正の研究 第5回～第8回　社会福祉に関する政策動向の文献研究…中央社会福祉審議など政府審議会の答申，全国社会福祉協議会委員会報告の研究 第9回～第13回　地域福祉実践と研究の成果と課題に関する研究…地域福祉計画策定，社会福祉協議会活動，民生委員・児童委員活動，ふれあいサロン，小地域福祉活動など具体的なフィールドワークを取り上げる 第14回～第15回　地域福祉展開のパラダイム
評価方法	①授業内における文献研究・フィールドワーク研究の発表内容＝約50％ ②授業内における発題や応答などディスカッションへの積極的な姿勢および当該テーマへのアプローチ方法の創意工夫など研究者としての資質の深化＝約50％
参考書・テキスト等	○テキストは特になし。 ○授業担当者が指定する文献・論文は適宜配布する。 ○推奨文献・論文は適宜紹介する。

科目名	高齢者保健福祉特論
英文名	Health and Welfare for older adults
担当者	松沼　記代
時期・単位	保健福祉学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	高齢者保健・福祉分野における施策サービスの概要や問題点を明確にして、問題点の解決方法や理念を具現化するための方法について科学的に検証する。このような過程をとおし、柔軟に思考する能力や分析する能力を習得する。
当該科目の内容・計画	第1回　導入　授業の進め方 第2回　高齢者福祉施策の概要及び課題　①介護保険サービス 第3回　高齢者保健福祉施策の概要及び課題　②保健サービス 第4回　高齢福祉施策の概要及び課題　③社会保障サービス 第5回　欧米における高齢者福祉施策の実情と課題① 第6回　欧米における高齢者福祉施策の実情と課題② 第7回　尊厳を支えるケアに関する法律・制度と課題 第8回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題① 第9回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題② 第10回　尊厳を支えるケアを具現化するための理念と課題① 第11回　尊厳を支えるケアを具現化するための理念と課題② 第12回　権利擁護事業及び成年後見制度の現状と課題 第13回　介護予防事業の動向と課題① 第14回　介護予防事業の動向と課題② 第15回　総括
評価方法	レポート提出及び発表70％、授業の参加度20％
参考書・テキスト等	毎回資料を配布するが、適時参考図書を提示する。

科目名	教育・福祉紛争解決特論
英文名	Resolution of Education/Welfare Disputes
担当者	森部　英生
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	福祉施設である保育所（園）であれ教育施設である学校であれ、そこでの保育・教育が然るべく行われるためには、家庭と保育所（園）・学校とが緊密に連携協力する必要がある。保護者側から種々の要望やクレームが寄せられ、これに施設・学校側が対応すべきである所以はここにある。本科目では、保護者側から寄せられる多様な要望・クレームに、施設・学校ないし保育者・教師がどのように対応すべきか、また、それがトラブルとなったときにはどのような解決・処理方法があるか等について、内外の文献及び実例を素材に考察する。
当該科目の内容・計画	第1回～ 第3回　わが国における「クレーム社会」状況について、文献及び実例をもとに考察する。 第4回～ 第6回　紛争及び紛争解決に関する理論を、内外の文献をもとに研究する。 第7回～第12回　保護者からのクレームに対して施設側がどのように対応しているか、当事者同士の直接交渉、裁判、及び裁判外解決システムなどの諸方式に焦点を合わせ、具体的な事例をもとにクレーム対応・トラブル解決を考察する。 第13回～第15回 「紛争解決学」の成立の可能性・必要性等について考察し、その具体的構築を展望する。 ※各回で予定されたテーマ等にとらわれず、上記の内容を受講生とともに検討しながら進めていく
評価方法	院生の授業に対する貢献度、途中で適宜課すレポート類等を総合して評価する。
参考書・テキスト等	院生と相談の上、適切を思われる文献・資料等を用いる。

科目名	家族社会学特論
英文名	Research of Family Sociology
担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	本講義は、保健福祉分野で必要とされる家族社会学の基礎と応用を身につけていけるようにすすめていく。
当該科目の内容・計画	第1回　は　じ　め　に 第2回　家族研究の発端 第3回　家族分析の基礎 第4回　親族と地域生活 第5回　家族変動・近代家族 第6回　結婚の定義・結婚行動 第7回　夫婦関係 第8回　生殖行動 第9回　子育てと子どもの社会化 第10回　階層と職業 第11回　家族危機・家族と個人 第12回　離婚 第13回　世代間関係 第14回　家族問題 第15回　家族政策
評価方法	毎回、教科書を持参して、予習復習をすること。 なるべく学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業ならびに作業への関与の度合いを重視する(50%)。また、学期末にはレポート課す(50%)。
参考書・テキスト等	教科書:野々山久也編著『論点ハンドブック　家族社会学』世界思想社、2,625円。 講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	保健福祉学特別研究
英文名	Seminar for Master's Thesis on Health and Welfare Sciences
担当者	指導教員
時期・単位	保健福祉学専攻　1・2年　通年　必修　8単位
当該科目の目的	院生は保健福祉学に関する修士論文を提出しなければならないが、そのためのテーマ設定にはじまり、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成のすべての過程において、指導教員による適切な助言・指導を行い、院生主体の論文作成の完成に導いていく。
当該科目の内容・計画	各指導教員より別途指示する。
評価方法	修士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。
参考書・テキスト等	各指導教員より別途指示する。

食品栄養学専攻　博士前期課程

科目名	食品栄養学特論
英文名	Advanced Food and Nutrition Science
担当者	小澤・綾部・岡村・木村・田中・永井・松岡・渡辺
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　必修　4単位
当該科目の目的	食品栄養学全般の広い視野にわたり学識を深め、各分野の専門知識や新たな問題を学習する。
当該科目の内容・計画	第1回～第3回　食と健康、疾病に関する疫学的研究の最近の動向（渡辺） 第4回～第6回　疾病、身体障害、摂取傷害及び競技スポーツなど特別な条件を持つヒトを対象とした健康行動科学（木村） 第7回～第9回　ビタミン様物質であるイノシトールとコリンによる脂質代謝調節機構とミネラルである亜鉛の免疫抑制作用機構（田中） 第10回～第12回　食品の色、香り、味及びテクチャーという2次機能性とその生体への作用、嗜好成分の利用法についての最近の知見（小澤） 第13回～第15回　食品の特徴づける有機化合物の化学構造と食品の三次機能との関係（松岡） 第16回～第18回　食品の加熱操作による物理・化学的変化の機構およびサイコレオロジー（綾部） 第19回～第21回　味覚受容体の生理機能と受容体研究の方法論（永井） 第22回～第24回　臨床栄養に関する最近の知見（岡村） 第25回～第27回　応用栄養に関する最近の知見 第28回～第30回　食品の安全に関する最近の知見
評価方法	レポートの提出や受講生と教員の間で議論することで、受講者の理解度を評価する。
参考書・テキスト等	担当教員から別途指示する。

科目名	食品学特論
英文名	Advanced Food Chemistry
担当者	小澤　好夫
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	食品の栄養・嗜好・機能性について学習する。特に非栄養素と生体機能及び食品と活性酸素について理解を深める。
当該科目の内容・計画	第1回～第5回　食物繊維 第6回～第10回　香辛料 第11回～第12回　活性酸素とは 第13回　活性酸素と生体 第14回～第15回　食品成分による活性酸素の消去
評価方法	レポートによる。
参考書・テキスト等	特に無し。

科目名	応用食品学特論
英文名	Applied food science.
担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	地球環境の変化に伴う食糧問題、高齢社会及び寝たきりなどによる生体機能の低下などに対応すべく、環境に適応した高次機能性を有する新規食品のシーズ開発、機能性を有する新規食品の有効利用と効率的な先端的加工(特許技術)の方法について正しく理解し、研究推進の基盤構築を達成目標とする。
当該科目の内容・計画	第1回　ガイダンス、本特論の進め方、到達目標、評価方法の確認 第2回～第4回　天然物から加工する食品の機能性成分の分析手法について、培養細胞レベルでの試験、前臨床試験、ヒト試験も解説する 第5回～第8回　新規食品の摂食用量や用法の決定に関する定義と生体内動態および効能効果とその作用機序について解説する 第9回～第11回　食品の機能性について物質レベルの化学構造解析法について、解説する。 第12回～第15回　食品の抗酸化性
評価方法	講義は対話形式やパワーポイントを利用した解説形式が中心となる。よって講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメントなども重視する(評価の50%)。学期末に課すレポート(レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解しているかを重視する)による評価50%。
参考書・テキスト等	特に指定はしないが、学術雑誌の論文を参考書とすることがある。講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	食品安全学特論
英文名	Seminar for Food Safety Science
担当者	(平成26年度は休講)
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	
当該科目の内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	調理機能学特論
英文名	Functional cookery science advanced lecture
担当者	綾部　園子
時期・単位	食品栄養学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	調理学を基礎として、各種調理操作に伴って生ずる食品の呈味成分・機能性成分・物性・組織の変化を理解するとともに、食べ物に対する人間の受容性とかかわりについて、身体的・心理的側面から考察する。講義、実験、討議の一連の過程において、研究者として必要な総合的な知識・態度を修得する。
当該科目の内容・計画	各テーマごとに講義を行った後に、実験・データ解析を行い、討議する。 第1回　イントロダクション－授業の進め方、到達目標、評価方法 第2回～第4回　味覚の受容機構と閾値 第5回～第7回　ポリフェノール類やビタミン類などの抗酸化成分の調理による変化 第8回～第10回　ゲル状食品の物性 第11回～第12回　咀嚼・嚥下機能と食品物性 第13回～第15回　サイコレオロジー ※回数にとらわれず、上記の内容を、指導生とともに検討しながら進めていく
評価方法	各テーマごとの討論50％、レポート50％
参考書・テキスト等	特に指定はしないが、参考書を何冊か紹介する。 資料は適宜配布する。

科目名	栄養学特論
英文名	Advanced nutrition
担当者	永井　俊匡
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	摂食行動に関与する味覚は、栄養学における重要な一分野である。この科目では、味覚受容のしくみと最新の研究の展開を解説する。この中で、研究の流れに沿って解説を行うことで、研究者として必要な論理的思考の涵養も図る。
当該科目の内容・計画	前半は、味覚受容のしくみを解説し、後半に、最新の研究トピックを紹介する。 第1回～ 第4回　味覚受容機構の概説 第 5回～ 第9回　味覚受容体の各論 第10回～第12回　遺伝子の個人差と味覚受容の個人差の関係 第13回～第15回　味蕾以外に発現する味覚受容体 ※回数にとらわれず、上記の内容を、指導生とともに検討しながら進めていく。
評価方法	出席30%、授業中の質疑応答30%、レポート40%
参考書・テキスト等	資料は適宜配布する。

科目名	分子生物学特論
英文名	Special Seminar for Molecular biology
担当者	保坂　公平
時期・単位	食品栄養学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	分子生物学は、コンピューターを始めとする情報科学と同様に20世紀に最も進歩した学問である。この学問の進歩により、遺伝情報の流れが明かとなり、医学、生物学、農学の理解が分子のレベルで理解できるようになった。この科目では、その基本を教授する。
当該科目の内容・計画	第1回～第4回　この学問の歴史的な背景・進歩の状況を分かり易く説明する。例えば、誰がどのような結果を基に現在の正しい結論を導き出してきたかを具体的なデータを示しながら学生との対話形式でポイントを絞った講義を行う。 第5回～第8回　ワトソンとクリックの提唱したDNAの二重らせん構造モデルとそれから派生した生物遺伝情報の解析結果について講義する。 第9回～第12回 分子生物学の医学への応用的側面について講義を行う。特に標的タンパク質の構造とドラッグデザイン、テーラーメード医療、RNA医療などに焦点を当てる予定である。 第13回～15回　受講学生の属する専門・専攻分野を十分に考慮しながら、彼等の専門に分子生物学がどう応用できるかを論じる。 ※一応、基本的な予定を記入してあるが、回数にとらわれずに上記の内容を指導学生と共に検討しながら講義を進めていく。
評価方法	出席状況及び、講義中の質問への対応を基に評価を行う。
参考書・テキスト等	テキスト：好きになる分子生物学(萩原清文著、講談社) 参考書：遺伝子から生命をみる(関口睦夫ら著、共立出版)

科目名	栄養生化学特論
英文名	Advanced Nutrition Biochemistry
担当者	田中　進
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	本講義は脂質の分類、構造の特徴、解析法などの基礎的事項を修得し、脂質のもつ3つの基本的機能「膜構成成分」、「エネルギー源」、「シグナル分子」を理解する。これにより、脂質が関与するメタボリックシンドローム、癌、アレルギーなど最新の知見について自由に展開できることを目標とする。
当該科目の内容・計画	第1回　イントロダクション－授業の進め方、到達目標、評価方法の確認 第2回　脂質の分類・構造 第3回　脂質の分離・精製法 第4回 脂質の分析法・定量法 第5回　脂質メディエーターの生合成 第6回～第7回　生理活性脂質の細胞膜受容体 第8回～第9回　イノシトールリン脂質代謝と細胞内シグナル伝達 第10回～第11回　脂質メディエーターと免疫 第12回～第13回　コレステロールホメオスタシス 第14回～第15回　アディポネクチンと脂質代謝
評価方法	講義は対話形式やリサーチ内容の発表形式が中心となる。従って、講義内での発言や発表内容を重視する（評価の50%）。また学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解して分析が行われているかを重視する）による評価を50%とする。
参考書・テキスト等	講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	臨床栄養学特論
英文名	Clinical Nutrition
担当者	岡村　信一
時期・単位	食品栄養学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	食により人の体は作られる。食と健康・疾病との関わりについて、最新の論文等を用いて基礎および臨床の両面から解説する。
当該科目の内容・計画	第1回～第4回　食と栄養・代謝系疾患 第5回～第7回　食と消化器系疾患 第8回～第10回　食と腎・尿路系疾患 第11回～第12回　食と循環器系疾患 第13回～第14回　食と免疫・アレルギー系疾患 第15回　食と神経・精神系疾患
評価方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッションの状況から総合的に成績を評価する。
参考書・テキスト等	資料は適宜配布する。

科目名	栄養教育学特論
英文名	
担当者	木村　典代
時期・単位	食品栄養学専攻　1年後期　選択　2単位
当該科目の目的	肥満ややせの生理と食行動との関係、ストレスと食意識・食行動、著しい身体活動増加時の食行動等に焦点をあて、このような状況下における栄養教育プログラムを考察する。
当該科目の内容・計画	第1回　肥満者の食行動1 第2回　肥満者の食行動2 第3回　肥満と運動1（エネルギー代謝） 第4回　肥満と運動2（糖代謝） 第5回　ダイエットと体重 第6回　国際的な栄養教育 第7回　スポーツ選手の食行動（エネルギー）1 第8回　スポーツ選手の食行動（食意識）2 第9回　スポーツ選手の食行動（食環境）3 第10回　スポーツ選手の食行動（女子選手の3主徴）4 第11回　スポーツ栄養マネジメント 第12回　ストレスと食行動1 第13回　ストレスと食行動2 第14回　栄養アセスメント1 第15回　栄養アセスメント2
評価方法	文献紹介・文献講読および対話・発表を行う。 授業中の発言や発表内容などの授業態度（80%）、レポートの提出(20%)にて成績評価を行う。
参考書・テキスト等	特に指定はしない。授業中に参考文献・参考図書を適宜紹介する。

科目名	保健情報学特論
英文名	Health Informatics
担当者	渡辺　由美
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	栄養教育、栄養指導、公衆栄養活動を効果的に実践するには、多角的視野から情報を収集し、収集した情報を適切に分析・判断する能力が必要である。本講義では、地域、学校、職場等の人間集団を対象に健康状態、食生活や栄養状態を評価するための疫学的方法論や結果を適切に評価するための統計学的手法について講述する。さらに，各種調査から得られる結果の信頼性（妥当性や有効性）を客観的に評価し、正しく利用するための応用力を養う。
当該科目の内容・計画	第1回　データ処理について1 第2回　データ処理について2 第3回　データ処理について3 第4回　データ処理について4 第5回　データ解析「基本統計量・クロス集計」1 第6回　データ解析「基本統計量・クロス集計」2 第7回　データ解析「推定・検定」1 第8回　データ解析「推定・検定」2 第9回　データ解析「推定・検定」3 第10回　データ解析「推定・検定」4 第11回　データ解析「推定・検定」5 第12回　データ解析「推定・検定」6 第13回　SPSSによるデータ解析「推定・検定」7 第14回　SPSSによるデータ解析「推定・検定」8 第15回　SPSSによるデータ解析「推定・検定」9
評価方法	課題に対する学習意欲、レポートの内容などで総合的に評価する。
参考書・テキスト等	講義に使用する資料を適宜配布する。

科目名	予防医学特論
英文名	Division of preventive medicine
担当者	（平成26年度は休講）
時期・単位	食品栄養学専攻　1年前期　選択　2単位
当該科目の目的	
当該科目の内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	食品科学総合演習Ⅰ
英文名	Seminar for Master's Thesis on Food Science Ⅰ
担当者	綾部園子・小澤好夫・松岡寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　2単位
当該科目の 目的・内容・計画	(綾部園子)食品の調理性に関する国内外の学術論文を精読し、研究推進に活用する。 (小澤好夫)食品科学に関する英文論文を紹介し、英文論文に慣れることを目的として指導する。 (松岡寛樹)専門分野に関わる国内外の論文を精読し、最新知見を得るとともに実験手法や論文のまとめ方について総合的に習得する。
評価方法	レポートの提出や教員との間で議論することで、理解度を評価する。
参考書・テキスト等	担当教員から別途指示する。

科目名	食品科学総合演習Ⅱ
英文名	Seminar for Master's Thesis on Food Science Ⅱ
担当者	綾部園子・小澤好夫・松岡寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　2年通年　選択　2単位
当該科目の 目的・内容・計画	(綾部園子)食品の嗜好性およびその評価方法に関する国内外の学術論文を精読し、研究能力を高める。 (小澤好夫)院生の興味あるテーマについて解説させ、文献検索及びプレゼンテーション技術を向上させる。 (松岡寛樹)高度なデータ解析や文献整理のための専用ソフトを用いてプレゼンテーション方法や論文記述方法について総合的に学習し、研究者養成のための総合的な演習を行う。
評価方法	レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。
参考書・テキスト等	担当教員から別途指示する。

科目名	栄養科学総合演習Ⅰ
英文名	Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science Ⅰ
担当者	岡村信一・木村典代・田中進・渡辺由美
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　2単位
当該科目の 目的・内容・計画	(岡村信一)生命と栄養科学に関する学術論文を収集・吟味して、この分野の知識を包括的に習得する。 (木村典代)栄養教育・指導への行動科学理論の応用方法を海外の各種文献を取り上げて学習する。 (田中進)ビタミンやミネラルに関して報告された国内外の学術論文の精読を行い、この分野の知識を修得する。 (渡辺由美)研究テーマに関連した国内外の論文を精読し、最近知見を得るとともに論文のまとめ方や効果的な分析方法を習得する。
評価方法	レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。
参考書・テキスト等	担当教員から別途指示する。

科目名	栄養科学総合演習Ⅱ
英文名	Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science Ⅱ
担当者	岡村信一・木村典代・田中進・渡辺由美
時期・単位	食品栄養学専攻　2年通年　選択　2単位
当該科目の 目的・内容・計画	(岡村信一)生命と栄養科学に関する学術論文の内容を批判的に吟味しその考察を発表する。 (木村典代)栄養学的研究成果を栄養教育・指導に生かす手法等を学習する。 (田中進)微量栄養素素に関して報告された国内外の学術論文を要約し、その内容をゼミ形式で発表する。 (渡辺由美)研究を遂行する上で必要な統計学的手法として、多変量解析などの発展的な方法について統計ソフトを使用して学習する。
評価方法	レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。
参考書・テキスト等	担当教員から別途指示する。

科目名	食品栄養学特別研究
英文名	Seminar for Master's Thesis on Food and Nutrition Sciences
担当者	指導教員
時期・単位	食品栄養学専攻　1・2年通年　必修　8単位
当該科目の 目的・内容・計画	食品栄養学に関する修士論文のテーマ設定、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成のすべての課程において、指導教員による適切な助言・指導を行い、修士論文を完成させる。
評価方法	修士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。
参考書・テキスト等	各指導教員から別途指示する。

講義概要

博士後期課程

保健福祉学専攻　博士後期課程

科目名	保健福祉学研究
英文名	Health and Welfare
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	現在の保健と福祉の活動は、いずれの分野においても、保健と福祉が協力と言うより統合して実施しなければならない状況にある。本特論においては、保健とは何か、福祉とは何かを一緒に考え、保健と福祉の成り立ちの歴史と、その学問としてび成立の過程を踏まえながら、地域における実践と各種サービスの実情と問題点、今後の方向について論じ合う。
評価方法	授業での取り組み
参考書・テキスト等	学生の水準に合わせて選択する

科目名	高齢社会学研究
英文名	Research of Aging Society
担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	(目　的) 高齢社会の多様な側面を学ぶことで、高齢社会学研究の方法を理解する。 (内容・計画) 第1・2回　老年観の変遷 第3・4回　高齢社会の人口学的構造 第5・6回　高年齢者の就業・就労 第7・8回　高齢社会の経済的側面 第9・10回　高齢社会の政治学 第11・12回　介護保険制度の動向 第13・14回　高齢社会と家族・地域支援 第15・16回　高齢社会とジェンダー・ロール 第17・18回　高齢社会と判断能力 第19・20回　高齢社会と自立の援助 第21・22回　高齢社会と精神医学的人間学 第23・24回　サクセスフルエイジングとはなにか 第25・26回　わが国における老年学の現状と課題 第27・28回　抗加齢学とはなにか 第29・30回　高齢社会の死生観
評価方法	受講生にテキストの内容をめぐって報告をしてもらい、全体で議論をしながら高齢社会学研究を学習していきたい。したがって、評価は、授業への関与の度合い(50%)、ならびに学期末レポート(50%)で判断する。
参考書・テキスト等	テキスト:齋藤正彦編『高齢社会考』ワールドプランニング、2100円。 講義に必要な資料は適宜、配布する。

科目名	発達障害研究
英文名	Developmental Disorders
担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	発達障害者支援法が平成17年に施行され、自閉症をはじめとする広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害などの発達障害を持つ人々に対する援助等について定められた。ここでは、「発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であることにかんがみ、発達障害を早期に発見し、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めることにより、発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする」と記されている。本講では、発達障害をめぐる社会福祉の現状や今後の展望を俯瞰するとともに、医療・教育・司法の現場での実態や課題を調査研究することで、発達障害の支援について考察する。 ＊回数や内容はこれにとらわれず、指導生と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。
評価方法	講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。
参考書・テキスト等	適宜参考書を推薦する（佐々木正美、こどもへのまなざし、福音館など）

科目名	保健福祉調査研究
英文名	Qualitative research and Quantitative research
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	保健福祉調査研究の主たる二つの方法である。質的研究と量的研究について講義を行う。質的研究は、比較的に数の少ないデータについて「何故、どうして」という意味内容を把握するために行われる。内容分析、グラウンデッドセオリー、エスのグラフィーなどの方法で記述データを扱うことが多い。量的研究は、数の多いデータを標準化された尺度で数量化し平均値比較や相関を探索する研究である。研究の基礎になる二つの方法論について講義する。
評価方法	授業態度で評価する
参考書・テキスト等	学生の希望や能力に合わせて選択する

科目名	社会学調査研究
英文名	Sociological Research
担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	（目　的） 社会学の観点からの調査研究について理解する。 （内容・計画） 第1・2回　リアリティと格闘する―社会学研究法の諸類型 第3～8回　事例の奥にひそむ本質 第9～15回　体系的データは語る 第16～22回　数理で読み解く 第23～28回　スクリーンのなかの社会 第29・30回　社会学“知”へ到達する―研究法と理論の接続
評価方法	受講生にテキストの内容をめぐって報告してもらい、全体で議論しながら社会学調査研究を学習していきたい。したがって、評価は、授業への寛容の度合い(50％)、ならびに学期末レポート(50％)で判断する。
参考書・テキスト等	テキスト：今田高俊編『社会学研究法リアリティの捉え方』有斐閣アルマ、2415円。 講義に必要な資料は適宜、配布する。

科目名	家族研究
英文名	Research of Family
担当者	渡辺　俊之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	保健福祉領域では家族を理解して関与することが必須である。家族を理解するための基本的概念、①家族の構造、②家族の機能、③家族の歴史の理解方法について提示する。また、家族における対話、「ナラティブ」がメンバー心理に与える影響についても講義する。日本家族研究・家族療法学会への積極的参加も推奨する。
評価方法	授業態度と面接内容
参考書・テキスト等	学生の希望や水準に合わせて決定する。

科目名	児童青年心理学研究
英文名	Child and Adolescent Psychology
担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	人は誕生してから、さまざまな過程を経て、大人になり、そして老いていく。人類の歴史も、個人の歴史も、極めて相似している。人類はまだ、幼児期にあるという識者の意見がある。未熟な段階にある我々が、人類として成熟していくためにも、個体の発達について学ぶことには大きな意味がある。本講義では、これまで培われた発達心理学の知見を学び、極めてダイナミックな時期である「児童青年期」の心理について考察する。 発達心理学総論、発達の理論、胎児期から新生児期、乳児期から幼児期、学童期、青年期からヤングアダルトへ、思春期の特徴、社会とのかかわりと課題、発達問題と心理療法、児童青年精神医学、虐待問題などを予定。 ＊回数や内容はこれにとらわれず、指導生と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。
評価方法	講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。
参考書・テキスト等	適宜参考書を推薦。（児童と青年の発達心理学、橘川真彦、随想社；脳と心のプライマリーケア、4子どもの発達と行動、シナジー社など）

科目名	脳科学研究
英文名	Brain Science Research
担当者	小澤　瀞司
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	脳の機能と病態の研究では、分子→細胞(ニューロン)→神経回路→脳全体の統合的機能・行動というミクロからマクロにわたる階層性に基づくアプローチが必要である。本科目では、脳の高次機能とその破綻としての精神疾患の病態を現代の神経科学が上記のアプローチによりどこまで明らかにしつつあるのかを検討する。基礎となるテキストに沿って講義と討論を進め、適宜、各領域の最先端研究を取りまとめた総説を抄読する。
評価方法	成績の評価は、出席と発表等での授業への参加態度50%、最終レポート50%として行う。
参考書・テキスト等	テキスト：神経科学―脳の探求―　Bear MF et al.（加藤宏司他訳） 西村書店 2007

科目名	医療福祉情報学研究
英文名	Advanced Health Informatics
担当者	竹内　裕之
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	少子高齢化社会に突入した我が国において、メタボリックシンドロームに象徴される生活習慣病の予防は喫緊の課題であり、この分野への情報技術の活用が期待されている。本研究では、日常の生活環境で発生する個人の健康状態と生活習慣に関わるデータを対象とし、個人毎に健康を維持・増進するための情報を獲得する新しい健康・医療情報学について研究する。 ①病気の予防を目的とした新しい健康・医療情報学の概念、考え方にについてゼミ形式で討論する。 ②研究課題をいくつか提示し、その中から1テーマを選び、自主的に調査・研究を実施する。 ③上記調査・研究において、定期的に途中結果についてまとめて、ゼミ形式で討論し、方向性を明確にする。 ④調査・研究結果をレポートもしくは論文にまとめ、発表会を実施する。
評価方法	レポートもしくは研究論文にて評価する。
参考書・テキスト等	自作pptファイルのプリント

科目名	保健福祉情報システム学研究
英文名	A Study on Informatics for Healthcare and Welfare
担当者	東福寺　幾夫
時期・単位	保健福祉学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	保健医療福祉を推進する上で、情報システムは不可欠のツールである。本研究は保健・医療・福祉に関連した情報システムに関わる最新トピックを取り上げ、その事例研究を行い、保健・医療・福祉情報システムの最新動向やその背景を理解することを目的とする。 実施に当たっては、院生の研究テーマ・希望等を勘案し資料を提供し、討議を行う。 具体的内容については、初回の講義時間に院生と協議し、決定する。
評価方法	毎回提出するレジュメ、討議内容およびレポートを総合的に評価する。
参考書・テキスト等	必要な文献等はその都度指示する。

科目名	特殊研究(保健福祉学専攻)
英文名	Seminar for Doctoral Dissertation on Health and Welfare Sciences
担当者	指導教員
時期・単位	保健福祉学専攻　1～3年通年　必修　12単位
当該科目の 目的・内容・計画	博士論文をまとめるにあたり、テーマ設定、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成のすべての過程において、指導教員による適切な助言・指導を行い、院生主体の論文作成の完成に導いていく。 各指導教員より別途指示する。
評価方法	博士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。
参考書・テキスト等	各指導教員より別途指示する。

食品栄養学専攻　博士後期課程

科目名	調理機能学研究
英文名	Study of functional cookery science
担当者	綾部　園子
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	調理は人間が食物を摂取する最終過程にあり、栄養との接点であるので、対象者の嗜好・摂食嚥下力・食文化・栄養量に合致したものを調製することが重要である。本研究においては、各種調理操作に伴って生じる食品の物性・組織・嗜好成分・機能性成分の変化と、それらの制御法について論ずるとともに、食べ物に対する人間（特に幼児および高齢者・疾病者）の嗜好・嚥下咀嚼力との関連について研究する。
評価方法	プレゼンテーションおよび討議50%、レポート50%。
参考書・テキスト等	特に指定しないが、参考書を何冊か紹介する。 資料は適宜配布する。

科目名	機能性食品学研究
英文名	Functional food science
担当者	（平成26年度は休講）
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	食品学研究
英文名	Food Chemistry Research
担当者	小澤　好夫
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	研究活動を行うための思考及び方法の学習。 食生活は、栄養成分補給のためだけではなく、生きていることへの楽しみや喜びを与える重要な要素である。一方、個々の食品は色、香り、味及びテクスチャーという固有の因子を有しており、それらのファクターは食欲など人間の食行動に大きな影響を及ぼしていることは周知の事実である。 本講座では、わが国の伝統的香辛野菜について、その嗜好性及機能性から見た文献を購読し、具体的な研究方法を修得する。 第1回～第5回　ダイコン 第6回～第10回　ショウガ 第11回～第15回　ミョウガ 第16回～第20回　シソ 第21回～第25回　タデ 第26回～第30回　ワサビ
評価方法	レポート
参考書・テキスト等	

科目名	臨床栄養学研究
英文名	Research of Clinical Nutrition
担当者	岡村　信一
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	健康を増強するため、および疾病を予防・改善するために、食はきわめて重要である。その観点から、最新の論文等から知見を収集・整理して習得する。また、それに基づいて自身の研究テーマを設定し、計画を立案して研究を遂行する。研究成果のプレゼンテーションと論文作成についても学習する。
評価方法	研究テーマへの取組み、プレゼンテーション、ディスカッションの内容から総合的に成績を評価する。
参考書・テキスト等	資料は適宜配布する。

科目名	栄養生化学研究
英文名	Nutrition Biochemistry Research
担当者	田中　進
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	微量栄養素に関する論文を精読し、研究の立案を行う。研究の目的に従い、研究方法、実験方法を構築する。研究を実践することにより研究成果をまとめ、プレゼンテーションと討議を行う。これにより、微量栄養素の分野で指導的に研究・討議できるレベルに到達することを目標とする。 第1回～第3回　イントロダクション－研究の進め方、到達目標 第4回～第8回　専門文献の精読 第9回～第12回　研究の立案 第13回～第15回　研究方法、実験方法の構築 第16回～第23回　研究の実践 第24回～第26回　プレゼンテーション指導 第27回～第30回　プレゼンテーションと討議
評価方法	プレゼンテーション70％、討議30％で評価する。
参考書・テキスト等	資料は適宜配布する。

科目名	食品安全学研究
英文名	Food Safety Science
担当者	（平成26年度は休講）
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	応用食品学研究
英文名	Applied food science.
担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	近年の漬物は浅漬けが主流となっているが、伝統的な漬物のほとんどは発酵熟成させたものであることに着目し、その機能性について抗酸化性や抗遺伝毒性を指標とした有機化学的な手法を用いた基盤的な研究を行う。さらに、得られる知見をもとに、機能性を生かした食品加工技術を開発し、食品製造に活用できる応用研究を実施する。 第1回　ガイダンス、本特論の進め方、到達目標、評価方法の確認 第2回～第8回　食品の機能性について物質レベルの化学構造解析法について、研究する。 第9回～第15回　食品の抗酸化性について、試験管レベルから生体との関わりについて研究する。 第16回～第17回　中間報告と総合討論 第18回～第22回　漬物について、食文化的かつ科学的な知見について研究する。 第23回～第29回　漬物について、食文化的かつ科学的な知見について研究する。 第30回　最終報告会とまとめ
評価方法	講義は対話形式やパワーポイントを利用した解説形式が中心となる。よって講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメントなども重視する（評価の50%）。学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解しているかを重視する）による評価50%。
参考書・テキスト等	特に指定はしないが、学術雑誌の論文を参考書とすることがある。講義に使用する資料は適宜配布する。

科目名	保健情報学研究
英文名	Health Informatics
担当者	渡辺　由美
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	少子・高齢社会における健康の保持増進と疾病予防を目的として、人間の健康状況と食生活・栄養、ライフスタイル、身体活動などとの関連を解析するため、地域、職域、学校等の人間集団を対象とした疫学調査、情報処理、統計解析を中心とした研究を行う。また、現在は膨大な量の健康情報が存在しているが、その中から必要な情報を集め、整理し、役立つ情報として加工し、その結果を活用できる高度な情報利用能力を持つ研究者の育成を行う。
評価方法	研究テーマへの取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。
参考書・テキスト等	講義に使用する資料を適宜配布する。

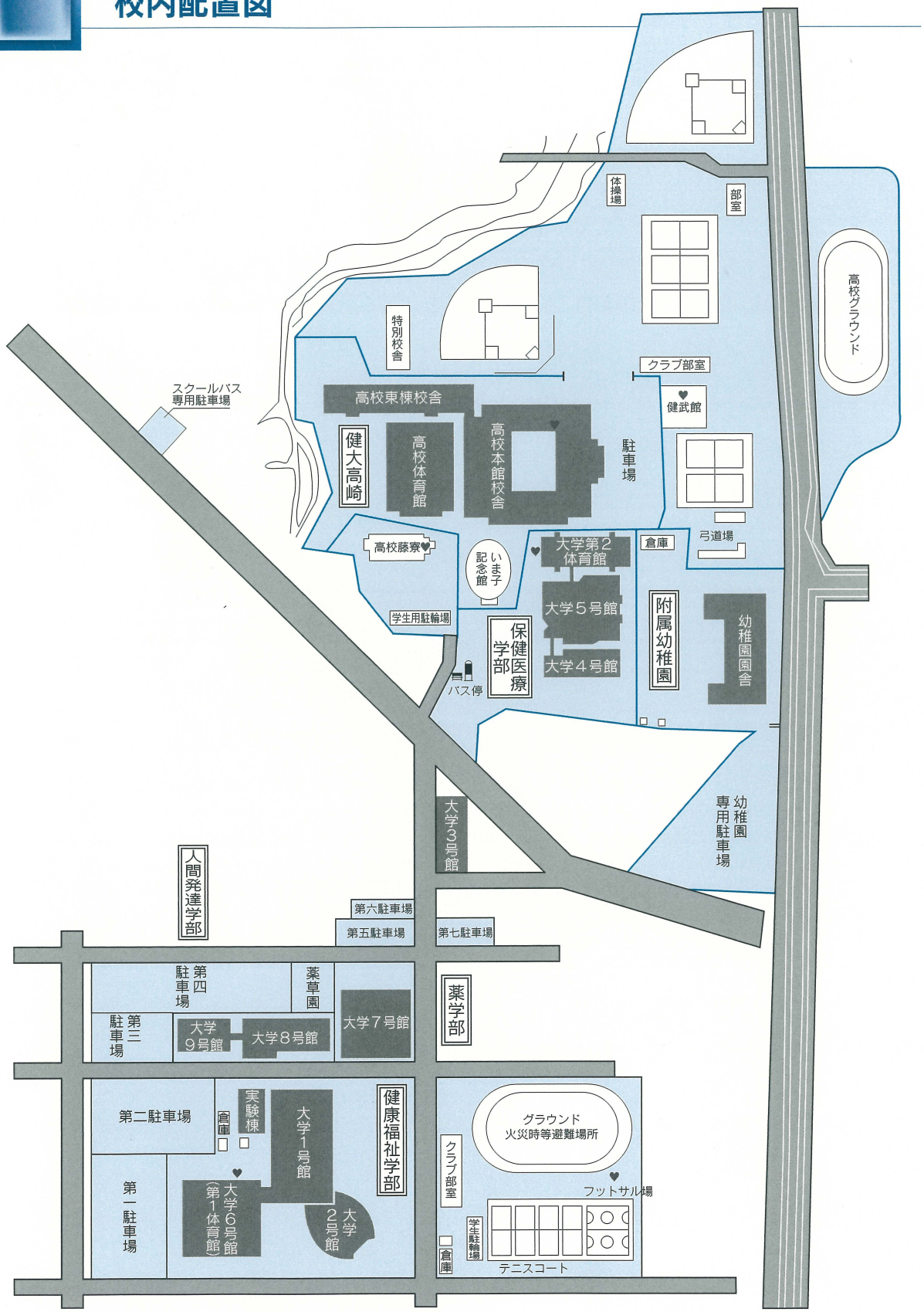
科目名	予防医学研究
英文名	preventive medicine research
担当者	（平成26年度は休講）
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	
評価方法	
参考書・テキスト等	

科目名	スポーツ栄養学研究
英文名	Clinical Sports Nutrition
担当者	木村　典代
時期・単位	食品栄養学専攻　1年通年　選択　4単位
当該科目の 目的・内容・計画	スポーツ栄養学研究は、栄養学一般、栄養教育、スポーツ生理学の統合である。具体的には、①運動中の競技力・コンディションに影響を及ぼす栄養素等摂取の方法や栄養管理方法の生理学的探求、②身体活動中の心理状態は食と大きく関与することから、食とスポーツ心理と身体的変化の探求、③ライフステージ×競技特性に応じたスポーツ栄養マネジメントの構築など、食とスポーツに関わる様々な事象を多角的に追求していく。 近年、健康面からも運動と食の重要性が指摘されているが、スポーツ栄養分野の研究分野は他分野の研究領域と比して知見が乏しいのが現実である。本研究では、両者の高度な知識を身につけ、それを応用したスポーツ栄養研究ができる研究者の育成を目指す。
評価方法	対話や研究内容の発表を中心として講義は行うが、自主的な研究活動を重視する。研究活動への態度（50%）、それによって得られる研究内容（50%）
参考書・テキスト等	特定のテキストは指定しない。　適宜、文献・資料を紹介する。

科目名	特殊研究（食品栄養学専攻）
英文名	Seminar for Doctoral Dissertation on Food and Nutrition Sciences
担当者	指導教員
時期・単位	食品栄養学専攻　1～3年通年　必修　12単位
当該科目の 目的・内容・計画	博士論文をまとめるにあたり、テーマの設定、研究計画の作成、研究の実施、研究成果のまとめとその評価、関連学会での口頭発表又は示説発表、関連学術雑誌への論文発表、博士論文の作成等について個別に指導する。また、それらの過程において、関連論文の精読とその内容の評価を行い、自分の研究に生かせるようにすると同時に論文作成にあたって参考文献として利用できるように指導する。
評価方法	博士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。
参考書・テキスト等	各指導教員から別途指示する。

校内配置図

校内配置図



♥：AED 設置場所

1号館（健康福祉学部）

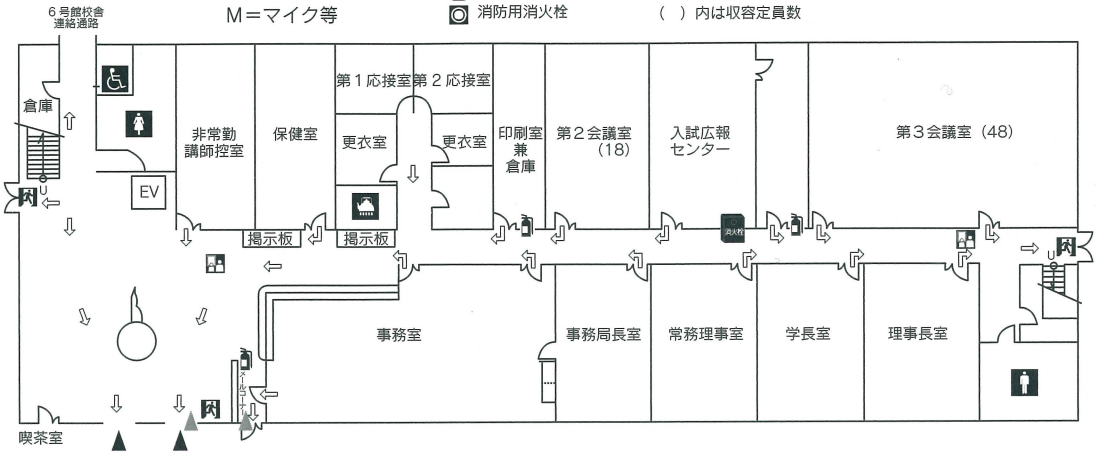
1　階

（　）内座席表
T＝テレビ
V＝ビデオ
S＝スクリーン
P＝プロジェクター
M＝マイク等

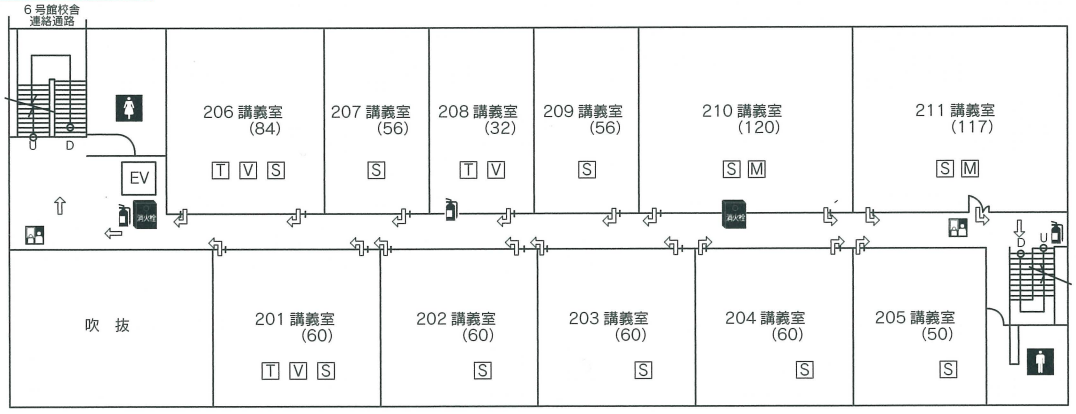
非常口
避難誘導灯
屋内消火栓
消火器
避難緩降機
消防用消火栓

避難経路
緊急避難時
緩降機経路

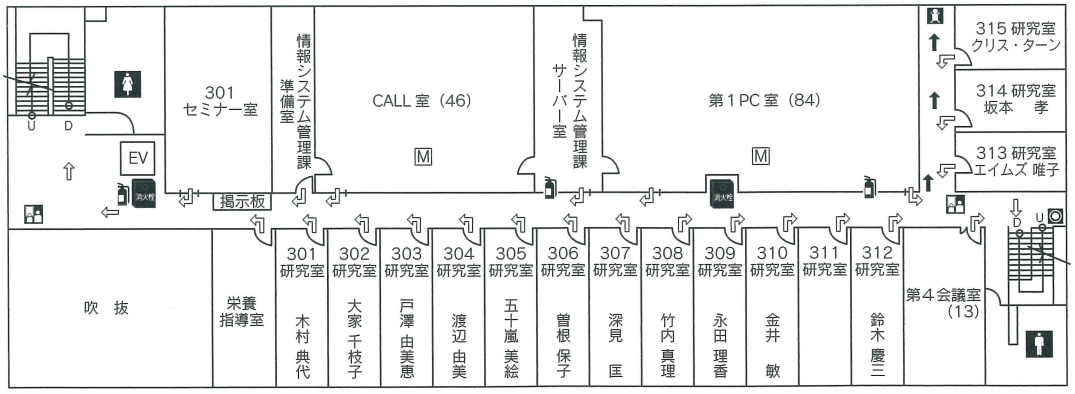
（　）内は収容定員数



2　階

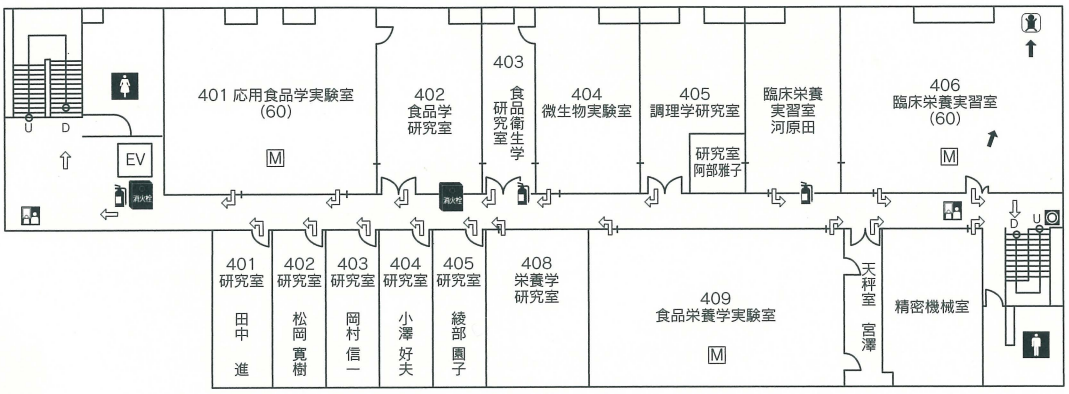


3　階

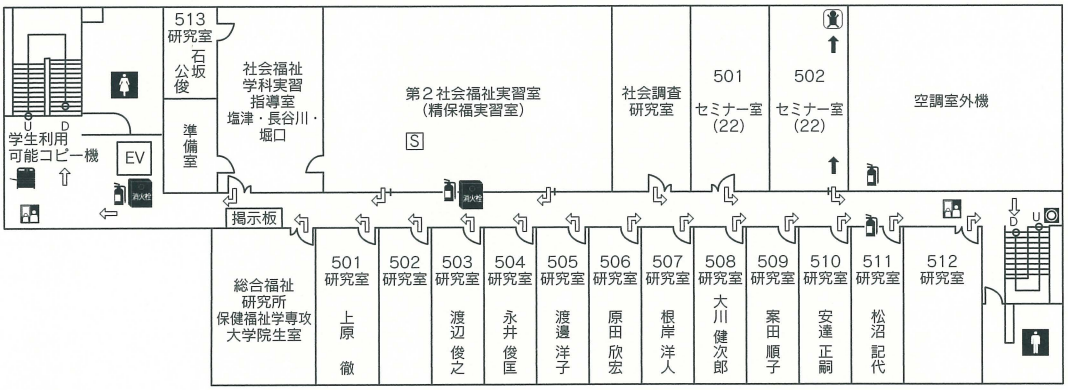


1号館（健康福祉学部）

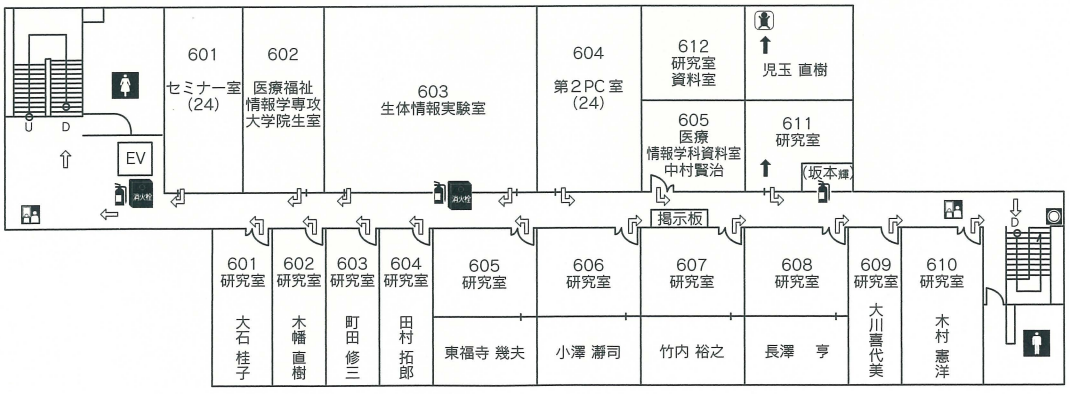
4 階



5 階

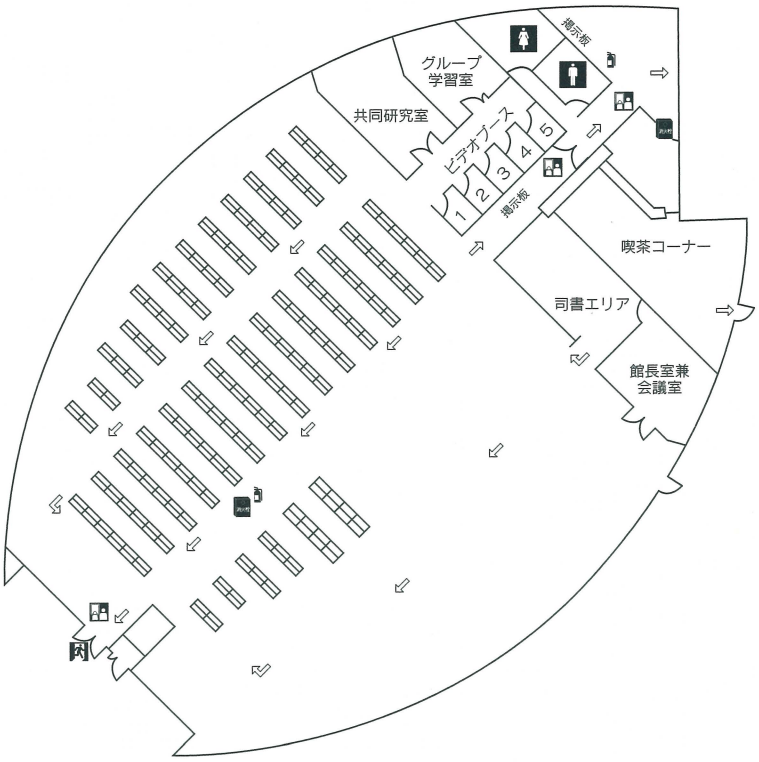
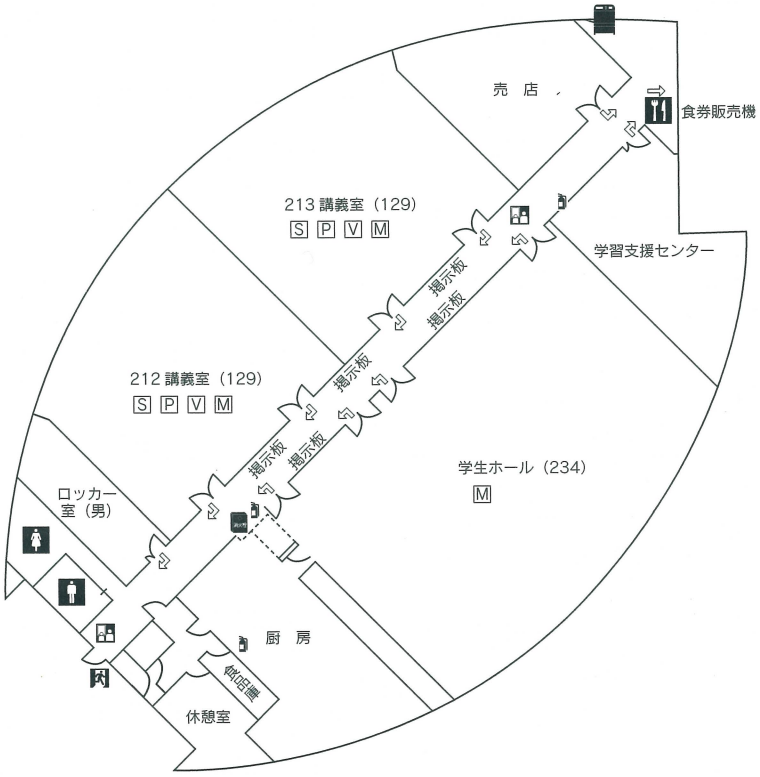


6 階



２号館（健康福祉学部）

１　階



２　階